

10

千代田区景観まちづくり重要物件

東京ルーテルセンタービル

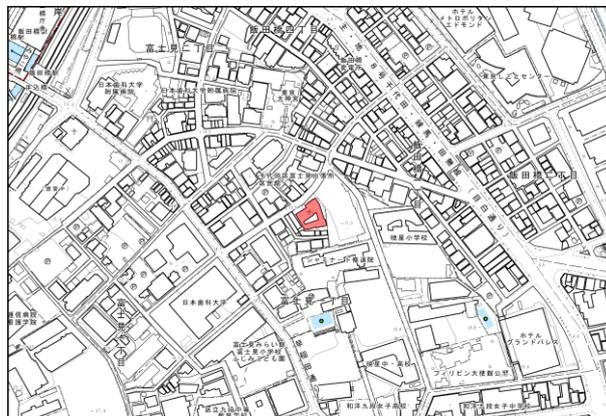
指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 富士見一丁目 2 番 32 号

設計者 長谷部鋭吉

竣工 1937（昭和 12）年

文化財等
指定状況 東京都選定歴史的建造物



▲東京ルーテルセンタービル 正面玄関

歴史・文化的特徴

1948（昭和 23）年にアメリカから日本伝道に派遣された宣教師団から始まる日本ルーテル教団が、1951（昭和 36）年に取得するまで、この建物は、現在は移転して三鷹にある東京神学大学（日本神学校）のものでした。大正、昭和にかけて関西の建築界の発展に貢献した長谷部鋭吉が手がけた建物です。

東京都選定歴史的建造物に選定されています。

意匠・構造の特徴

様式はドイツ表現派風であり、プロテスタント教会にふさわしい白壁の外観は簡素かつ清楚な雰囲気醸し出して、小さな開口部が並んだ塔屋が建物を印象づけています。

派手な装飾を排し、力動的なマッサ（量塊）でまとめられ、細部に歴史的な様式意匠が施されています。切り出したような印象を与えるフォルムに、微妙なバランスで配置された窓などのパーツ、深くほじったような窓開口など、長谷部鋭吉ならではの精神性を感じさせます。

周辺景観との関係

町名が示すように、かつてこの場所からは富士山が見えました。識別性の高いファサードデザインは、富士見町のランドマークにもなっています。

建物周辺には学校が建ち並び、歴史性を持つこの建物は文教地区としての景観をより象徴しています。